



6月図書だより

令和3年6月

32H 谷内・木村

6月に入り、梅雨の季節となりました。ジメジメとした蒸し暑い室内からふと窓の外に目を向けると涼やかに佇む“赤い”あじさいが…。一昔前のドラマなどでは「色の違うあじさいの下には死体が埋まっている」とも言われていました。斯くて今回の図書便りのテーマは

ミステリー特集

【ミステリー】です！…ちなみにあじさいの花の色はその土壌の pH 値に由来しているらしいので死体の有無はさして関係ないようです。

「氷菓」

米澤穂信 KADOKAWA

いつのまにか密室になった教室。毎週必ず借り出される本。あるはずの文集をないと言い張る少年。そして「氷菓」という題名の文集に秘められた 33 年前の真実……。何事にも“省エネ”な少年・折木奉太郎が、なりゆきで入部した古典部の仲間と共に、日常に潜む不思議な謎を次々と解き明かす！爽やかで、ちょっぴりほろ苦い青春ミステリー、〈古典部〉シリーズ開幕!!

角川文庫の「カドフェス杯 2016・2017」において高校生が選んだ第 1 位！短い小説でありながら、読み応えは充分。キャラクターひとりひとりに感情移入しやすいため、時間がなく最近小説を読めていない人でも日常の息抜きに読了できるおすすめの一冊です！_____青春は、優しいだけじゃない。痛い、だけでもない。ちょっと優しく、ちょっと痛い。そんな青春、感じてみませんか？



「世界の不思議生物 FILE」

生物雑学研究倶楽部編 学研プラス

100 年に一度咲く花、海底を歩く魚、宿主を洗脳する虫、半透明のカエル…彼らはなぜこのような姿、生態を持つのか。人間の想像を超えた、まさに“ミステリー”な生き物たちの、つい人に話したくなるような雑学がオールカラー・写真付きでまとめられた一冊です。本書では現在も生存している“ミステリー”生物だけでなく、(おまけの数ページではありますが)かつて地球上に生息していた、“絶滅した”不思議生物についても紹介されています。この本を読み終えた暁にはきっとあなたも不思議生物博士になれるかも？

「探偵 AI のリアル・ディープラーニング」 早坂吝 新潮社

人工知能の研究者だった父が、「探偵」と「犯人」、双子の AI を作った。高校生の息子・輔（たすく）は、探偵の AI・相以（あい）とともに父を殺した真犯人を追う過程で、犯人の AI・以相（いあ）を奪い悪用するテロリスト集団「オクタコア」の陰謀を知る。

この作品は、探偵が AI という珍しい小説で、コンピューターの専門用語を多用し、AI の問題点も含めて推理を進めていく。相似がスマホの中にあるので、主人公の輔が相似に周りを見せて捜査をするのだが、その時の会話がコメディタッチでおもしろい。AI ならではの推理で、わくわくしながら読める作品になっている。



「ビブリア古書堂の事件手帖

～栞子さんと奇妙な客人たち～

三上延 KADOKAWA

鎌倉の片隅でひっそりと営業をしている古本屋「ビブリア古書堂」。その店主は古本屋のイメージに合わない、若くきれいな女性である。彼女は古書にまつわる謎と秘密を、まるで見てきたかのように解き明かしていく。これは栞子と奇妙な客人が織りなす”古書と秘密”の物語。人が死なないミステリーの決定版で、主人公の栞子は文章から推理するので、読者も同じ視点で本を楽しめる。実際の有名な小説が紹介され、持ち主のその作品への思いが家族や友人などの他の人たちに伝わっていく。古本を通して人と人を繋いでいく、心温まるミステリーである。

図書館からのお知らせ

7月5日(月)～7月12日(月)

蔵書点検のため休館します。貸出はしませんが、返却のみ受け付けます。返却期限を過ぎている人は、7月2日(金)までに返却してください。



読書感想文課題図書を
展示しています。

『水を縫う』 糸地はるな著

『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ボイン著・原田勝訳

『科学者になりたい君へ』 佐藤勝彦著



毎年恒例の人気企画が始まった！何か気になる人は、見に来てね！

